



横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

横浜市飯島保育園

平成 29 年 2 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	12
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	13
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	14
評価領域Ⅵ 経営管理.....	15
利用者家族アンケート分析.....	16
利用者本人調査.....	20
事業者コメント.....	23

◆ 実施概要 ◆

事業所名	横浜市飯島保育園
報告書作成日	平成29年1月19日 (評価に要した期間4カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成28年9月1日～10月31日】
 - ・職員会議で説明後、一人一人が評価を行い、工夫事例も記入した。
 - ・意見交換を行い、評価項目や工夫事例等について確認し、一つにまとめた。
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成28年10月13日～10月27日】
 - 配 付：全園児の保護者（51家族）に対して、園から手渡しした。
 - 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成28年12月16日、12月19日】
 - 第1日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長）
 - 第2日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
(主任・保育士3名・非常勤保育士1名・調理職員1名)
事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成28年12月16日、12月19日】
 - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。

◆ 評価結果についての講評 ◆

【施設の概要】

横浜市飯島保育園は、JR および横浜市営地下鉄ブルーライン「戸塚駅」からバスで15分ほどの「小学校下」バス停の向かいにあります。園はUR飯島団地の中にあり、隣には横浜市立飯島小学校があります。近くには飯島市民の森を始め緑豊かな公園が複数あり、子どもたちの散歩コースとなっています。

横浜市飯島保育園は、昭和43年（1968年）7月に横浜市によって設立されました。昭和60年（1985年）に改築された園舎は築30年以上経過していますが、手入れが行き届き清潔に保たれています。園庭には砂場や鉄棒などの遊具があり、プールが設置されています。一角では幼児が野菜を育てています。また、乳児保育室前は乳児専用の芝生の園庭になっています。

定員は60人、開園時間は、平日7時～19時、土曜日は7時30分～16時30分です。

保育理念として「子どもたちの健やかな成長を願って」、保育方針として「夢中で遊ぶ子を育む保育」「豊かに表現する子を育む保育」「思いやりの心を育む保育」「考えて行動する子を育む保育」、保育目標として「やる気いっぱいかがやく目」「おひさまだいすき元気な子」「ともだちだいすき思いやりのある子」を掲げています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは一人一人の良さを素直に発揮し、園生活を楽しんでます

保育士は、子どもに寄り添い、子どもの思いや発想を受け止めるように努めています。保育士は、子どもに優しく話しかけたり、言葉を足したりして子どもの声や思いを引き出し、子どもが言葉で表現できるように働きかけています。乳児は、保育士に笑顔でたくさん話しかけてもらい、悲しいときには抱きしめてもらっていて、子どもたちは自分の思いを表情や身体、言葉で素直に表現し、落ち着いて園生活を過ごしています。幼児になると、子どもたちで話し合って活動内容を決めたりしています。保育士は、子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れる柔軟な対応をしています。例えば、絵本から「カッパ」に興味を持った子どもたちの「カッパは水と森があるところにいるらしい」という声で遠足の行先を決めたり、子どもたちで作ったストーリーを発表会の劇につなげた、などの事例があります。また、保育士は、子どもとの一対一の会話から子どもの思いを受け止め、日常の中での子どもの小さな頑張りやできたことを見つけて認め、子どもが安心感を持ち、「普段の自分」に自己肯定感を感じられるよう働きかけています。このような保育士の働きかけもあり、観察時にも、制作、鬼ごっこ、ペープサート、手伝いなど場面ごとにリーダーとなる子どもが入れ替わり、引っ張っていく姿を見ることができました。

園の周りには自然豊かな公園が多数あり、子どもたちは友達と思いっきり走り回ったり、探検したりしています。落ち葉で花束を作ったり、焼き芋ごっこをしたりと季節の自然を楽しみ、林の中を散歩して「かっぱ」を探したりと想像力を広げています。

園では、異年齢児との散歩や3歳児の午睡後に4、5歳児が着替えなどの手伝いに行くなど、日常的に異年齢での交流を取り入れています。4、5歳児が園庭に入出入りする際の乳児の準備を手伝ったり、0歳児が幼児が運動会で行った体操を真似て踊ったり、3歳児が5歳児の劇の真似をしたりする姿があちこちにみられました。

このように、子どもたちはそれぞれの良さを保育士に優しく受け止めてもらい、のびのびと園生活を楽しんでます。

●保育士は自己研鑽に励むとともに、子どものできたことや成長したことを自己肯定感につなげられるよう保育しています

園では、目標共通シートを用いて目標や役割を設定し、職員が幅広いスキルを身に付けられるようにしています。職員は、横浜市や栄区を始めとした様々な研修に積極的に参加しています。園内研修では外部研修の報告を行うとともに、保育士それぞれが自己の課題に沿ってテーマを設定し講師を務めています。研修では、各クラスのビデオや写真をもとに、皆で子どもを見る視点について事例検討するなどしています。

また、エネルギー管理や緑化の推進（芝生の管理）、防災、地域ネットワークなどの役割や係があり、職員は研修や会議等に出席し取り組んでいます。このような保育以外の役割や係の活動を通し、職員が幅広い視点をもって自己研鑽する意識を高められるようにしています。

幼保小学校や地域ネットワーク、栄区公立園の交換研修など、他園との交流の機会も多くあり、自園を振り返り他園の良い事例を学ぶ機会としてだけではなく、地域における保育園の役割を確認し、コミュニケーション力を高める機会となっています。

保育士は、会議やミーティング、日常会話の中で、子どもができたこと、がんばったこと、小さな発見などについて情報共有し、子どもの成長を喜び、保育の楽しさを伝え合い、子どもが自己肯定感を感じられるように働きかけています。

●地域の福祉施設として、地域に根付いています

園では、地域の子育て家庭に向けて、交流保育（年10回実施）、ランチ交流（年10回実施）、園庭開放（毎日実施）、プール開放（プール期間毎週火・水・木実施）などの子育て支援事業を行っています。地域の親子と園児の交流を目指した交流保育は「どろんこ」「たなばた」「親子で体を動かして遊ぼう」など、親子で楽しむことができるようプログラムを工夫しています。育児講座は、年2回開催するほか、月1回親子で楽しむ講習会「かばくんアートボックス（様々な素材を使って製作を楽しむ会）」をおこなっていて、リピーターが出るなど好評です。毎日、地域向けの育児相談を行うとともに、豊田地域ケアプラザでの子育てサークルなどの出前保育実施の際に「子どもの育ち」などについての相談を受けています。

地域との交流も盛んで、保育園の運動会に自治会の会長や小学校の校長、第三者委員を招待しています。また、世代間交流として、近隣の老人会サークルへ子どもたちが、月1回出かけ、手遊び歌などを披露しています。「お正月遊び」には、園へ招待しています。

地域の小学校・幼稚園とは、年間計画を作成し、幼保小の交流を計画的に実施しています。交流給食やタッチプール体験（水辺の生き物と触れ合う体験）、2年生のお仕事体験、幼稚園での交流、学校体験、交流活動としての松ぼっくりツリーの制作などを行い、連携を積極的に図っています。また、子どもたちが散歩で小学校のウサギを見に行ったり、幼稚園にヤギに餌をやりに行ったりするなどの、日常的な交流もあります。

このような取組を通し、子どもたちはさまざまな経験を重ね、地域に見守られ成長しています。

2. 工夫・改善が望まれる点

●保護者の安心のためにも、園の不審者対策を再度見直すことが望めます

園では、不審者対応マニュアルを整備するとともに、年2回不審者対応訓練を実施しています。また、朝夕の送迎時以外は電子錠による門扉施錠をし、民間の警備会社とも契約しています。ただし、今回の保護者アンケートの「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」の項目では、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた保護者の割合が比較的高くなっていて、自由意見欄にも「入ろうと思えば誰でも入れる」などの不安の声があります。

保護者の安心のためにも、園の不審者対策について保護者に説明するとともに、再度点検、見直しを図ることが望めます。

◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

<p>評価分類 I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>	<p>評価結果</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 保育理念は「こどもたちの健やかな幸せと成長を願って」、保育方針は「夢中で遊ぶ子を育む保育」「豊かに表現する子を育む保育」「思いやりの心を育む保育」「考えて行動する子を育む保育」、保育目標は「やる気いっぱいかがやく目」「おひさまだいすき元気な子」「ともだちだいすき思いやりのある子」で、利用者本人を尊重したものとなっています。保育理念、保育方針、保育目標を玄関、保育室、事務室などに掲示するとともに、毎朝のミーティング時に唱和しています。また、カリキュラム会議で年間指導計画を作成する際に、保育理念、保育方針、保育目標に沿っているかを確認しています。 • 保育課程は子どもの最善の利益を第一義に作成しています。保育課程には、保育理念、保育方針、保育目標、保育姿勢、地域の特性、地域との関わりなどが明記されていて、地域の実態や周囲の環境を反映したものとなっています。昨年度、職員がプロジェクトチームを組み、一年かけて保育課程の見直しをしました。保育課程をマニュアルに綴じ込み、誰でも見られるようにするとともに、福祉員会議、アルバイト会議でも説明しています。保護者に対しては、懇談会の資料に保育課程に基づいた子どもの姿を記載し、クラス懇談会で説明しています。 • 保育課程に基づいて、年齢ごとの指導計画を作成しています。子どもの関心や意見をもとに行事の出し物を決めるなど、子どもの関心や意見を指導計画に反映しています。今年度はカップをテーマにし、お楽しみ会や運動会、公開保育などにつなげていて、お楽しみ会の劇はストーリーも子どもたちが相談して作りました。 • 保育士は、子どもに優しく話しかけ、子どもの言葉や態度、表情、反応から子どもの意思を汲み取っています。幼児クラスでは、散歩の行先や行事の内容などを子どもと相談しながら決めています。 	

評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 入園日に、担任が親子面接をしています。離乳食など個別の課題がある場合には、事前に個別に確認しています。入園決定通知時に保護者にアンケートを送付して、生育歴、既往症、食事、アレルギーなどについて記入し事前に提出してもらっています。入園日の親子面接で、担任がアンケートを基に再確認しています。面接時に把握した情報は記録するとともに、ミーティング時に職員間で共有しています。 入園説明会で、園長が短縮保育（ならし保育）について説明し、家庭の状況や子どもの状況に合わせ、個別に保護者と相談しながら実施しています。0、1歳児の新入園児に対しては、主に担当する保育士を決めています。0～2歳児は連絡ノートを用い、毎日保護者と情報交換しています。口頭でも保護者に子どもの様子を伝え、保護者の不安の解消に努めています。 在園児への配慮としては、食事のときに人手を増やすなど、手厚い職員体制を整えています。また、複数担任のクラスは、できるだけ担任が一人は持ち上がるようにしています。環境の変化の大きい3歳児は、2歳児の2月から、3歳児保育室で食事やトイレを経験し、卒園式後には3歳児保育室に移るなど、環境に慣れるための配慮をしています。 年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画を作成しています。指導計画は、子どもの発達や状況に合わせ、クラスで話し合い、柔軟に見直しています。また、運動発達計画、異年齢年間計画、食育年間計画も作成しています。月間指導計画は、クラス担任が話し合って作成し、カリキュラム会議で職員間で話し合い、共有しています。 	

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> こまめに窓を開けるとともに、換気扇、空気清浄機を用い、換気しています。保育室内に温・湿度計を設置し、エアコン、FF暖房機、加湿機能付き空気清浄機、加湿器を用いて、温・湿度の管理をしています。窓は大きく、十分に陽光を取り入れることができます。西日が当たる保育室には、カーテンを用いて西日を遮るなどの工夫をしています。 1、2歳児、4、5歳児は同じ保育室を用いていますが、どちらかのクラスが音の出る活動や静かな活動をする時には、もう一方のクラスが園庭やホールを用いたり、2クラス一緒に活動をするなどの工夫をしています。 乳児トイレ、1、2階のテラスには温水シャワーの設備があります。沐浴の際には、ベビーバスを用いています。シャワー設備は掃除が行き届き、十分に管理されています。シンクや温水シャワー設備は掃除や管理が行き届いています。 0、1、2歳児の保育室は、棚やマット等を用いて仕切り、小集団で落ち着いて遊べるようにしています。0歳児はフロアスペースで食事をし、畳スペースで午睡しています。1～3歳児は食事のあと、掃除をしてから布団を敷いています。4、5歳児は保育室で食事をし、ホールで午睡をしています。 屋内の異年齢の交流の場としては、ホール、1階絵本コーナー前のスペースがあります。1、2歳児、4、5歳児は同じ保育室を用いていて、日常的に交流しています。散歩や午睡後のお手伝いなどで異年齢で交流する機会が多くあり、年上の子どもが年下の子どもの手助けをしたり、年下の子どもが年上の子どもの真似をする姿を観察時にもあちこちで見ることができました。 	

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 0、1、2歳児は個別の月間指導計画があります。幼児に関しても、特別な配慮がある場合には、個別指導計画を作成しています。個別の目標、計画は毎月のカリキュラム会議で振り返りをし、子どもの状況に合わせて、柔軟に変更・見直しをしています。 • 保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付しています。 • 保護者に児童票、健康台帳を記入してもらい、子どもや家庭の個別の状況や要望を把握しています。入園後の子どもの様子は、0歳児は毎日、1歳児以降は2期に分けて経過記録に記録しています。児童票、健康台帳、経過記録、個人面談記録などの子どもの記録は事務室の鍵のかかる書庫に置かれていて、職員は必要なときには閲覧することができます。進級に向けて3月下旬に、新旧担任間で、記録をもとに、口頭での申し送りをおこなっています。 	

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。 • 個別のケースについて毎月のカリキュラム会議で話し合っていて、記録があります。情報は記録し、事務室の鍵のかかる書庫に置かれていて、必要な職員はいつでも閲覧することができます。 • 園はバリアフリー構造になっていません。ただし、肢体が不自由な障害児に対しては、職員間で連携し、抱っこで対応しています。 • 障害児保育については、保護者の同意を得て、よこはま港南地域療育センターと連携し指導やアドバイスを受けています。職員は横浜市や栄区、よこはま港南地域療育センターなどの研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は研修報告書を作成するとともに、園内研修で報告し、職員間で共有しています。また、毎月のカリキュラム会議で個別のケースを取り上げ、検討しています。 • 園は統合保育を掲げていて、保育士が仲介することで、障害のある子どもとほかの子どもが自然に関われるようにしています。加配の保育士を配置し、障害のある子どもがほかの子どもに上手く関われないときには個別対応ができる体制を整えています。子どもたちは障害のある子どもをクラスの仲間と認めていて、自然に手助けしている様子を確認することができました。 • マニュアルとして横浜市の子ども虐待防止ハンドブックがあります。栄区の虐待の研修に参加した職員が園内研修を行い、職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、栄区こども家庭支援課や横浜市南部児童相談所と連携する体制を整えています。また、園長が栄区の虐待防止連絡会に参加しています。 • 子どものかかりつけ医が記載した「保育所におけるアレルギー疾患生活管理表」を保護者に提出してもらい、医師の指示に基づき、除去食の対応をしています。毎月、園長、担任、調理職員が保護者と献立を確認し、サインをもらっています。除去食の提供時には調理職員との受け渡し時および子どもへの提供時に複数の職員で声出し確認をしています。誤食を防止するためにトレイと食器の色を一人一人別にし、名前とクラス、除去内容が書かれた名札を用いています。提供時にはテーブルを別にし、保育士が傍についています。 • 文化や生活習慣、考え方の違いを尊重する姿勢があります。外国籍などで意思疎通が困難な場合には、お便りにルビを振ったり、幼児でも毎日、連絡ノートを用いるなどの配慮をしています。また、言葉が通じる家族に電話で伝えたり、翻訳アプリを用いるなどしています。 	

評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 苦情受付責任者及び苦情受付担当者は園長で、保育園のしおりに明記し、保護者に周知しています。 • 玄関前に意見箱を設置しています。年2回の懇談会、年1回の個人面談を実施するとともに、行事後や年度末に保護者アンケートをおこない、保護者の意見を聞いています。保育士は、保護者との日常会話の中から保護者の意見、要望を把握しています。 • 横浜市保育所苦情解決要綱の中に、第三者委員が位置づけられていて、第三者委員を交えて対応する仕組みができています。第三者委員の氏名と連絡先を玄関、保育室に掲示し保護者に周知しています。また、第三者委員を行事に招待し、保護者に紹介する機会を設けています。 • 要望や苦情の内容や経過、対応策について、ミーティングで職員に報告しています。要望や苦情は記録し、データとして活かされています。 • 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口の紹介はしていません。保護者が外部の機関に直接相談できるよう紹介することが望まれます。 	

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 年齢や発達、子どもの興味に合わせた玩具や絵本を用意し、ひも通しや着せ替えドレスなどの手作りおもちゃやブロック、パズル、塗り絵、ままごと、人形などが各保育室あります。0歳児クラスはハイハイやつかまり立ち、歩き始めなど発達に合わせて保育室の環境構成に配慮しています。 • 子どもたちが自分で遊びを考え、好きなことを遊び込める時間が十分に確保できるように配慮しています。遊びが終わるまで待ったり、あとで続きができるように棚に飾ったり、理解できるように説明をしたりと子どもが納得して次の活動につなげるよう配慮しています。 • 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れる柔軟な対応をしています。例えば絵本からカッパに興味を持った子どもたちの「カッパは水と森があるところにいるらしい」という声で、集団活動として市民の森や舞岡公園に出かけました。 • 保育士は子どもの姿をケース会議でも話し合い、常に子ども一人一人が興味・関心を持って遊べるよう見守り、子どもの様子を見て声掛けをするよう配慮しています。 • 年間食育・栽培計画があり、園庭でオクラやトマト、スイカ、サツマイモ、パプリカ、きゅうりなどの野菜の世話をし育て、植物の成長や収穫の喜びを体験し、クッキングをするなどの機会を作っています。また、かいこやおたまじゃくし、クワガタ、ザリガニ、メダカなどを飼育して、図鑑で調べたり、飼育した昆虫の絵を描いたり、かいこのまゆで卒園式のコサージュ作りを計画するなど保育活動にフィードバックしています。 • 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう、制作や絵、歌、手遊び、リズム遊びなどをおこなっています。子どもの自発的な表現を促すために、さまざまな素材や用具として空き箱や新聞紙、紙、色紙、色鉛筆、クレヨン、粘土などを用意しています。4、5歳児は個別のお道具箱を用意して、自由に使えるようになっています。子どもたちの作品は子どもや保護者の目に触れる場所に飾っています。 • 子ども同士のけんかなどについては、幼児は自分の思いを伝え相手の気持ちを聞く大事な機会と捉え、子ども同士が納得して解決できるよう援助しています。年齢に応じて乳児は危険のないように保育士が間に入って気持ちを代弁しています。 • 子どもたちは夏祭りや運動会、お楽しみ会などの行事や誕生会で一緒に活動する機会を持っています。異年齢児との散歩や3歳児の午睡後に4、5歳児が着替えなどの手伝いに行くなど日常的に触れ合いの時間を持っています。また、夏季期間は「夏の生活」として幼児異年齢保育を実施しています。 • 天気の良い日は積極的に散歩や園外活動を取り入れて自然に親しむようにしています。2歳児からお弁当を持って遠方まで出かけ、年齢に応じて歩く距離を伸ばしています。4、5歳児は遠足で往復8キロの距離を歩いて舞岡公園に行きました。 • 発達過程に応じて運動能力を高められるよう、「運動発達年間計画」をもとに、リズム遊びやムーブメントをおこなったり、固定遊具や巧技台などを使い、身体を動かして遊べる環境を作っています。園庭では、安全に思い切り体を動かせるよう、クラス間で連携し時間帯を分けて使用しています。4、5歳児クラスは、栄区の運動指導員が年3回来園して指導を受けています。 	

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔生活〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保育士は、一人一人にあわせ、食べる前に量を調節したり、苦手なものは、一口でも食べるように促しますが無理強いはしていません。 • 子どもたちが食事やその過程に関心を持つよう年間食育計画を作成して、年齢に応じたクッキングを実施しています。給食室見学ツアーと称して子どもたちが調理過程を見学したり、園庭で栽培し、収穫した野菜を給食で提供するなど、子どもたちが給食に関心を持つよう工夫しています。また、4、5歳児は当番活動としてその日の献立を発表し、配膳と片付けの手伝いをしています。 • 季節感を大切に夏には冬瓜やそら豆、トウモロコシ、秋にはきのこなど、旬の食材を使用したり、クリスマスケーキやひな祭りのちらし寿司など、季節や行事に合わせた献立作りを工夫しています。 • 調理職員は毎日夕方のミーティングで保育士から子どもたちの様子や喫食状況を聞いて確認しています。サイクルメニューを取り入れていて1回目の意見や反省を次回に活かしています。例えば、食育で骨付きさんまの献立のときに骨が副菜に混ざって食べづらいという声から副菜をホイルに入れて混ぜないように改善しました。 • 「給食だより」に毎月の旬の野菜を紹介し、“朝ごはんで元気！”“水分補給のポイント”などを紹介して情報提供をしています。毎月レシピを作成して、各保育室に置き、保護者が自由に持ち帰れるようにしています。また、保護者が「保育士体験」に参加したときに給食を試食する機会を設けています。 • カーテンで明るさを調節して、乳児は子守唄を歌ったり、子どもの体に触れたりして安心して眠れるよう工夫しています。幼児は眠りにつくまで素話をしながら子どもの体に触れ眠りにつけるよう援助しています。 • 保育士は、一人一人の排泄リズムを捉え、個人差を尊重しています。乳児クラスは一斉にトイレに誘うのではなく、一人一人の排泄の様子を見ながら声掛けしています。幼児は園外に出るときなどは促しますが、強要しないよう心がけています。トイレトレーニングは朝夕の送迎時や連絡帳で家庭と連絡を取りながら、一人一人の状況をみて個別に対応しています。 	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 健康管理マニュアルや年間保健計画があり、全職員が子ども一人一人の健康状態を把握しています。 • 看護師が定期的に巡回し、季節に応じたうがいの仕方などの指導を受けています。歯科健診のときには、歯の赤染めチェックを体験したり、歯科衛生士や看護師の歯磨き指導を受けるなど、子どもたちが歯磨きの大切さを理解できるようにしています。 • 健康診断と歯科健診の結果は、それぞれ、「健康診断の結果」、「歯科健診のお知らせ」などを用いて、保護者に伝えていきます。 • 感染症マニュアルが事務室および各クラスの保育室に整備されています。登園停止基準等、感染症発症時の対応について「ほいくえんのしおり」に明記して保護者に周知しています。 • 横浜市や栄区などから感染症に関する最新の情報を随時得ており、朝の打ち合わせや職員会議などで職員に周知しています。 	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 清掃の統一した方法を定め、1日3回トイレチェックをおこなうなどの衛生に関するマニュアルができており、研修に参加して新しい情報を収集し、職員会議などで随時見直しをしています。 • 保育室の清掃と消毒や、トイレチェック表に基づいたきちんとした清掃がなされ、清潔で適切な状態が保たれています。 	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 安全管理に関するマニュアルがあります。地震等を想定して、家具には転倒防止や高い所の扉留め具、飛散防止フィルムなどの安全対策が講じられています。また、早番の職員や各担任が毎日安全チェックをおこない、安全点検簿に記入しています。 • 毎月の避難訓練のほか、大規模地震に備えた小学校への避難訓練も年に1回実施しており、保護者への引き渡し訓練もおこなっています。また、「避難訓練実施記録」にねらいや避難方法・実施状況などがクラス毎に記録されています。 • 関係機関や保護者、地域への連絡体制が確立されており、事務室に病院リストがあります。ケガ、交通事故や行方不明などあらゆる事故を想定したマニュアルがあり、いつでも確認できるようにしています。 • 正門はオートロックし、来訪者を確認してから開錠しています。裏門は朝と夕方のお迎え時間以外は施錠しており、午睡時間は保育室の出入り口の施錠をしています。不審者対応訓練は年に3回、保育中や夕方など場面を変えておこない、万に備えています。保護者アンケートでは、裏門の開錠について不安の声が上がっているため、再度出入り口の施錠に関して検討することが望まれます。 	

評価分類Ⅱ－3 人権の尊重	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの人権について職員会議などで話し合いをおこない、子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育をおこなってはならないことを理解しています。保育士は、穏やかにゆっくりと分かりやすい言葉で話しかけており、子どもに次の行動を促すときにも、無理強いせず声掛けを工夫し、子どもが楽しくその気になるように働きかけています。また、子どもを注意するときにも、叱るのではなく、子どもが納得できるように、なぜいけないのかを分かりやすく穏やかに説明しています。 • ホールや保育室のコーナーに子どもが一人になれるスペースがあり、友達や保育士の視線を意識せずに過ごすことができます。 • 「飯島保育園個人情報保護マニュアル」があり、職員に周知しています。ボランティアや実習生に対しては受け入れ時に周知しています。保護者に対しては、入園時に個人情報の取り扱いについて説明しています。個人情報に関する記録は事務室の鍵のかかる棚に保管しています • 保育室や園庭で保育士は、男女の差によって遊びを抑制したり役割を変えたりするようなことはなく、常に一人一人を公平に見ています。性差について職員会議で具体的な事例を取り上げて話し合う等、職員間で反省する仕組みができています。 	

評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保護者に入園説明会などで、園の基本方針について、パワーポイントを使用してわかりやすく説明しています。また、年2回おこなう懇談会でも園長は各クラスを回って園の方針とともにクラスの年間目標やねらいを伝えています。 • 年1回、個別面談の期間を定め、保護者が都合の良い日を選べるよう配慮しています。そのほか、保護者の要望に応じて、随時個別面談を実施しています。 • クラス全体の様子を伝えるクラス懇談会を年2回実施しています。年度始めにおこなわれる懇談会は多くの保護者が参加しやすいように開催時間を夕方に設定して実施しています。事前にレジメを配布してから懇談会を開催し、子どもの姿や保育内容・目的を丁寧に説明して、各クラスの活動の様子などを伝えています。また、「園だより」や「給食だより」は毎月、クラスだよりは年3回発行して園の様子、クラスの様子、エピソードなどの情報を保護者に提供しています。 • 年に1回の保育参加は、懇談会の日に設定するなど保護者が参加しやすいよう配慮しており、幼児クラスは「保育士体験」として積極的に保育参加を受け入れています。 	

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">園では年2回育児講座を開催し、月1回親子で楽しむ講習会「かばくんアートボックス（様々な素材を使って製作を楽しむ会）」を開催しています。毎日実施している園庭開放や相談事業を通じて地域のニーズを把握しています。例えば、水曜日は幼稚園が早帰りなので交流保育の実施日をほかの日に設定したり、園庭より施設内が良いという意見から、今年度は「かばくんアートボックス」を園内のホールで実施するなど利用者の要望に応え、定期的な利用者が増えています。地域への子育て支援事業として、交流保育（年10回実施）、ランチ交流（年10回実施）、園庭開放（毎日実施）、プール開放（プール期間毎週火・水・木実施）を実施しています。交流保育は“どろんこ”“たなばた”“親子で体を動かして遊ぼう”“節分”“ひな祭り”など、親子で楽しむことができるプログラムをおこなっています。	

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">園の情報を門扉に掲示して、地域住民に知らせています。また、栄区地域向け通信紙「つぼみ」や豊田地域ケアプラザ広報誌、栄区広報やポスターなどで情報提供に努めています。育児相談を毎日おこなっています。いつでも相談できることを園の入り口に掲示したり、配布物などで知らせて相談を受けています。豊田地域ケアプラザ等での子育てサークルなどの出前保育実施の際に「子どもの育ち」などの相談受け、その都度対応しています。相談内容に応じて、横浜市南部児童相談所、よこはま港南地域療育センター、病院、栄区役所などの関係機関・団体と日常的に連携が取れる体制ができています。	

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の運動会に自治会の会長や小学校の校長、第三者委員を招待しています。また、世代間交流として、「お正月遊び」に近隣の老人会サークルの方たちを招待したり、月に1回、子どもたちが老人会サークルを訪問し、手遊び歌などを披露する等、交流を図っています。 ・ 地域の小学校とは年間計画をもとに、交流給食やタッチプール体験、1年生との交流、松ぼっくりツリーの制作などをおこなったり、近隣の中学・高校生の職業体験を受け入れるなど、学校等と積極的に連携を図っています。 ・ 栄区公立保育園4園と近隣の幼稚園でムーブメントフェスティバルと一緒に参加する等、近隣の保育園、幼稚園と交流の機会を持っています。

評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供	評価結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の保育理念やサービス内容などの情報をパンフレットなどで地域や関係機関に提供しています。地域の育児支援事業や栄区民まつりなどの際に職員がパンフレットなどを配布しています。 ・ 園のしおりは、保育目標、保育姿勢、保育園概要（利用時間、定員等）、保育園の一日、給食についてなどの基本情報が記載されており、見学の際にはそれらをもとに説明しています。 ・ 利用希望者には園の見学ができることを案内しています。日程や時間は見学希望者の都合を優先しながら、保育内容や子どもの様子を見学してほしいと考え、見学希望者の子どもの年齢にあわせた見学時間を案内しています。

評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ	評価結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ボランティア受け入れマニュアル」にボランティア受け入れの意義や受け入れ手順、守秘義務と子どもへの配慮を明確に記しており、マニュアルに基づいて園の方針等をボランティアに説明しています。 ・ ボランティアの受け入れと育成の担当は主任がしており、受け入れ時の記録をファイルしています。 ・ 「保育実習生受け入れマニュアル」が整備されており、マニュアルに基づいて実習生に保育園の方針、子どもたちへの配慮などを説明しています。 ・ 実習生は毎日実習終了後に次の日の実習に活かせるように、クラス担任と振り返りをおこなっています。実習の最終日には園長、主任、職員が参加して意見交換をしています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類V-1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">横浜市保育所人材育成ビジョンに基づき、園長が、職員一人一人の育成計画を作成しています。職員は目標共通シートを用いて目標を設定し、達成度の評価をおこなっています。園長は年2～3回の面談で、職員の目標設定と達成度の評価をし、次年度への課題について助言しています。研修担当は主任で、経験や受講歴、希望などを考慮し、個人別の研修計画を作成しています。園内研修を開催していて、保育士による研修報告会のほか、災害時の対応、各クラスの様子をビデオや写真に撮って子どもを見る視点について話し合うなどしています。園は人材育成に力を入れていて、職員は、横浜市や栄区、よこはま港南地域療育センターなどを始めとし、各種外部研修に積極的に参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出するとともに、園内研修でも報告しています。研修報告書は回覧し、全員で共有できるようにしています。各保育室に業務マニュアルが置かれていて、いつでも確認できるようにしています。必要に応じて、マニュアルの読み合わせや研修も実施しています。業務にあたっては、職員と非常勤職員を必ず組み合わせるようにしています。ノロウィルス、救命救急法、AEDの使い方などの園内研修に非常勤職員が参加しています。また、栄区のアルバイト職員研修、横浜市の福祉員研修、障害児研修などに参加しています。非常勤職員の指導担当は園長、主任で、毎月アルバイト会議、福祉員会議を開催し、情報共有を図るとともに、意見を聞いています。	

評価分類V-2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">保育士は、目標共通シートを用い、目標設定と達成度の評価をおこなっています。また、保育士のための自己評価（チェックシート）を用い、自己の保育を振り返っています。職員会議やミーティングで、研修などで得た良い事例について報告し、取り入れています。年2回のよこはま港南地域療育センターの巡回指導のほか、栄福祉保健センターなどから指導やアドバイスを受けています。年間指導計画、月指導計画、週間指導計画、日誌には振り返りの欄があり、定型化されています。振り返りは計画で意図したねらいと関連付けて行われています。計画や日誌には、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組んでいる子どもの様子が丁寧に記載されていて、振り返りもその視点に沿っておこなわれています。振り返りの結果は、その後の計画作成に反映されています。保育士個々の自己評価の結果と年度末の保護者アンケートの結果をもとに職員会議で話し合い、保育所としての自己評価をおこなっています。保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、保育課程に沿っておこなわれ、園内に掲示し、公表しています。	

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">「横浜市保育士人材育成ビジョン」に職位ごとに求められる役割、能力、知識が明記されています。エネルギー管理、緑化推進（芝生管理）、物品管理、地域担当等の役割や担当を決め、職員に権限を委譲しています。さまざまな役割を果たすことで、保育士が幅広いスキルを身に付けられるようにしています。職員会議等で職員は業務改善について意見を交わしています。また、横浜市の職員満足度調査で業務改善に向けた提案を募っています。年2～3回の園長面談で職員の満足度や要望を聞いています。	

評価分類VI-1 経営における社会的責任	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> 横浜市服務規程に職員が不正・不適切な行為をおこなわないよう守るべき法・規範・倫理などが明文化されており、栄区コンプライアンス研修、接遇研修で職員に周知しています。横浜市職員行動基準、全国保育士倫理綱領を職員に配付し周知しています。横浜市などから得た不正、不適切な事案の情報をミーティングや職員会議で職員に伝え、不正防止に向けて啓発しています。 ゴミの分別を子どもたちと一緒にこなっています。廃材を手作りおもちゃの材料として用いたり、子どもの制作の素材に使ったりしています。栄区資源循環局によるイベントに参加し、給食から出たゴミをリサイクルし、堆肥作りをしています。堆肥は豊田農協の協力を得て園庭での野菜作りに用いています。緑化への取組としては、よこはまみどりアップ計画による園庭の緑化に取り組んでいます。また、園庭にピオトープを作っています。 事務室に横浜市役所環境行動宣言を掲示しています。 	

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> 保育理念、保育方針、保育目標を玄関、保育室、事務室などに掲示するとともに、園のしおり、保育課程に記載しています。毎朝のミーティング時に、理念、保育目標を唱和しています。必要に応じて、職員会議やミーティング、園内研修で、保育理念や基本方針に立ち戻り、確認しています。カリキュラム会議で年間指導計画を作成する際にも、保育理念、保育方針、保育目標に沿っているかを確認しています。園長、主任は保育の様子を見て回るとともに、計画や日誌に目を通し、保育理念や基本方針を職員が理解しているかを確認しています。また、園長面談でも確認しています。 壁紙の張り替えやお楽しみ会での保護者参加についてなどの重要な事項について、園長は職員に対しては職員会議で、保護者には園だよりやお便りで、目的や理由、経緯などについて説明しています。 年度末の事業計画書の作成では、異なる部門の職員でプロジェクトチームを作って検討しています。食育や育児講座、公開保育などでは企画段階から異なる部門の職員がチームとなって関わっています。 「横浜市保育士人材育成ビジョン」に基づき、主任クラスの職員を計画的に育成しています。栄区公立保育園の主任研修でスキルアップを図っています。主任はフリーの立場で保育に入ったり、シフトを作成したりし、個々の職員の業務状況を把握しています。主任は、個々の職員の能力や経験に合わせ助言や指導をおこなっています。 	

評価分類VI-3 効率的な運営	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> 園長は、横浜市や栄区の全体園長会、幼保小連携実行委員会などの各種会議に出席し、運営に影響のある情報を収集、分析しています。重要な情報は職員会議で報告し、重点改善課題として園全体の取組としています。 	

◆利用者家族アンケート分析◆

【実施概要】

■実施期間：平成28年10月13日～10月27日

■実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

■回収率：配付51件、回収39件、回収率76.5%

★文中の「満足」「満足度」は「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合計した結果、「不満足」は「不満」と「どちらかといえば不満」の回答を合計した結果です。

【結果の特徴】

- 園の保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は合わせて76.9%と認知度は低いですが、その全ての保護者がその保育目標や保育方針に「賛同できる」(63.3%)「まあ賛同できる」(36.7%)と答えています。
- 設問ごとの項目の中で、比較的満足度の割合が高かったのは、「戸外遊びを十分にしているか」の100%、「1日の過ごし方についての説明」97.5%、「遊びを通じての友達や保育者との関わりについて」「遊びを通じた健康づくりの取り組みについて」の97.4%です。
特に、問4「遊びについて」は全ての項目の満足度が90%以上と高くなっています。保護者が子どもの楽しんでいる様子を見て満足し、安心していることが、うかがえます。
- 一方不満足度の割合が比較的高かった項目は、「施設設備について」の25.7%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」の15.4%です。
- 「見学の受け入れについて」の満足度が64.1%と比較的低くなっていますが、「その他」「無回答」が合わせて35.9%となっていて、自由回答にも「見学していない」という声が多数あります。また、「残業などで迎えが遅くなる場合の対応について」の満足度も74.4%と比較的低いですが、「その他」「無回答」が23.1%となっています。
- 総合的な満足度は「満足」が61.5%、「どちらかといえば満足」が30.8%、合わせて92.3%と高くなっています。
- 自由記述欄には、「先生方がとてもよく対応して下さいます」「園庭が広く日常的に外遊びができてよい」など感謝の声が複数あります。一方、施設の高さや蚊対策、門扉の開閉などについてのさまざまな意見がありました。

横浜市飯島保育園 利用者家族アンケート集計結果

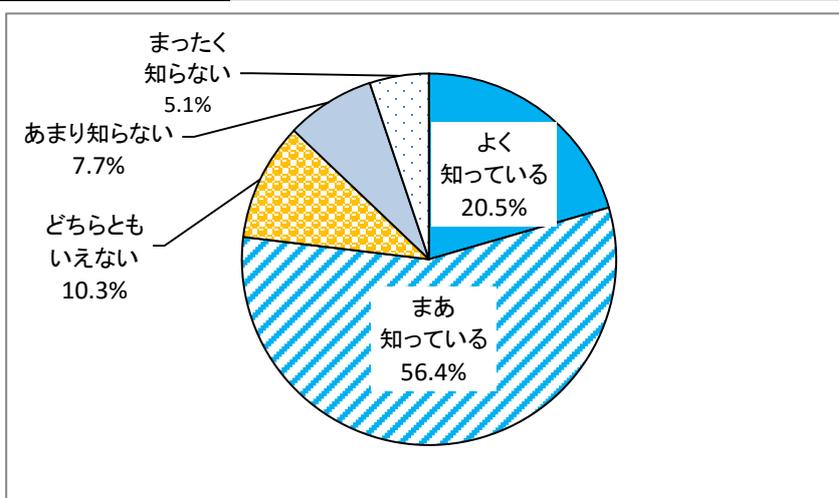
実 施 期 間	平成28年10月13日～10月27日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	51 件
有 効 回 答 数	39 件
回 収 率	76.5 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答
	4	8	8	6	7	5	1

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

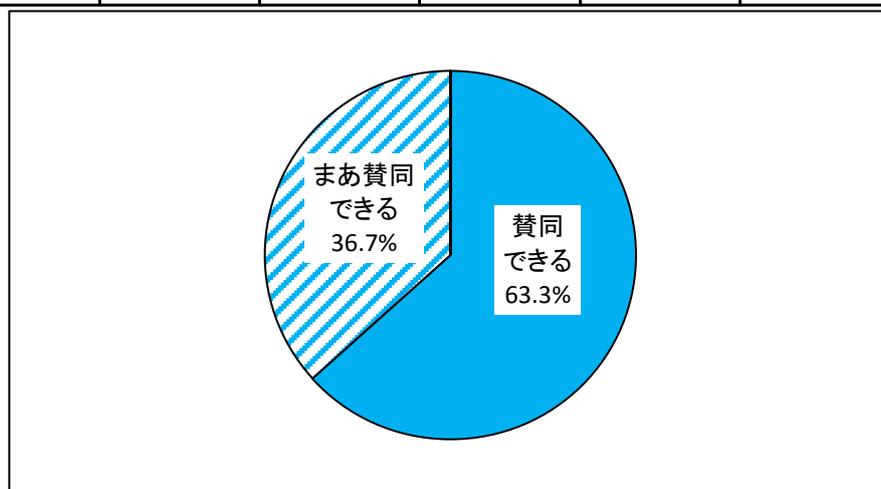
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	20.5	56.4	10.3	7.7	5.1	0.0



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答
	63.3	36.7	0.0	0.0	0.0	0.0



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	51.3	12.8	0.0	0.0	28.2	7.7	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.2	43.6	0.0	0.0	10.3	0.0	
園の目標や方針についての説明には	59.0	35.9	0.0	0.0	0.0	5.1	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	59.0	33.3	2.6	0.0	5.1	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	66.7	30.8	2.6	0.0	0.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	56.4	38.5	0.0	2.6	2.6	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	53.8	38.5	5.1	0.0	2.6	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.3	51.3	5.1	2.6	7.7	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	74.4	20.5	5.1	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	79.5	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	71.7	20.5	7.7	0.0	0.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	69.2	25.6	2.6	0.0	2.6	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	71.8	25.6	2.6	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	69.2	28.2	2.6	0.0	0.0	0.0	

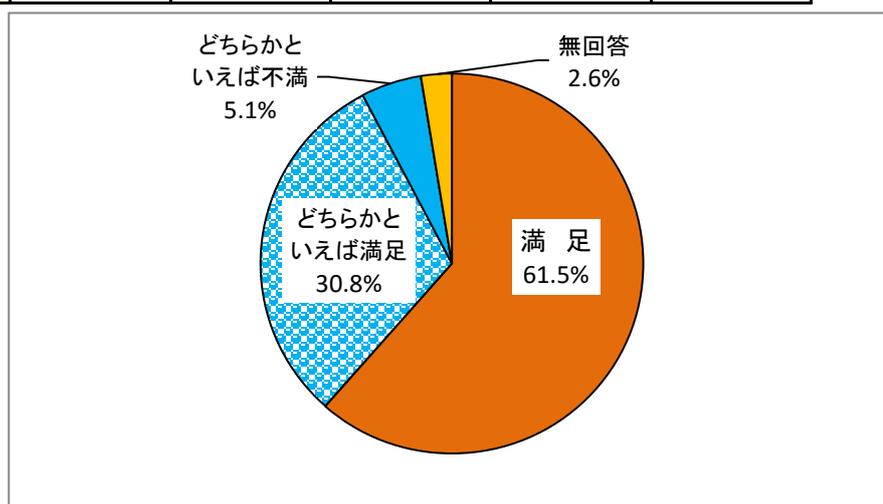
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	69.2	25.6	5.1	0.0	0.0	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	61.5	30.8	2.6	0.0	5.1	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	69.2	23.1	5.1	0.0	2.6	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	66.7	23.1	5.1	2.6	2.6	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56.4	28.2	2.6	0.0	7.7	5.1	
お子さんの体調への気配りについては	64.1	30.8	2.6	0.0	2.6	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	64.1	15.4	7.7	2.6	10.3	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	51.3	17.9	23.1	2.6	5.1	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	61.5	30.8	5.1	2.6	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	35.9	46.2	2.6	12.8	2.6	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	41.0	51.3	2.6	2.6	2.6	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	53.8	25.6	12.8	2.6	5.1	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	64.2	23.1	7.7	5.1	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	61.5	33.3	2.6	0.0	2.6	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	48.7	33.3	10.3	2.6	2.6	2.6	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	56.4	30.8	2.6	2.6	5.1	2.6	
保護者からの相談事への対応には	59.0	25.6	10.3	0.0	2.6	2.6	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	38.5	35.9	2.6	0.0	12.8	10.3	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	71.8	20.5	5.1	0.0	0.0	2.6	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	66.7	28.2	2.6	0.0	0.0	2.6	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	58.9	28.2	0.0	0.0	7.6	5.1	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66.7	23.1	5.1	0.0	2.6	2.6	
意見や要望への対応については	51.3	33.3	7.7	2.6	0.0	5.1	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	61.5	30.8	5.1	0.0	2.6	



◆利用者本人調査◆

【実施概要】

■実施日時：平成28年12月16日、12月19日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

子どもたちは、保育士が用意した画用紙にカラーサインペンで、トントンとたたいたり、ぐりぐりと動かして自由に描いています。保育士は、「上手、いっぱい描いたね」「違う色にする？」と時折色を変えて子どもに渡します。慣れてくると自分から持っているペンを渡してほかの色を要求する子どももいます。ペンを保育士に差し出すと保育士は「キャップを開けて欲しいの？」と子どもの思いを言葉に出して言います。子どもが手を保育士に見せ、「ばっちくなったね。てって洗おうね」と終わった子どもから順番に手を洗ってもらいます。子どもたちは、お気に入りのダルマのお面をかぶってキャッキョと嬉しそうな声をあげ、保育士の「だるまさんが、ごろっ・・・」の言葉と動作に合わせて子どもたちも動きます。一人が絵本を見つけて指差すと「じゃあ、絵本を読みましょう」とダルマちゃんの絵本を読んでもらいます。保育士の前に子どもが寝転ぶと、「きゅうりができた」の歌にあわせてふれあい遊びをしています。子どもたちは、保育士に身体をさすられ、ゆすられ、声を出して嬉しそうにしています。絵本を読んでいる間に一人ずつ、小さな布団とタオルを敷いてオムツを取り換えています。給食の時間です。「どうぞ召し上がれ」「自分で食べられてえらいね」汁椀を手を持って飲んだり、スプーンを使って食べたり、手を添えて食べる子どももいます。「かみかみ、美味しい？」「ごはんもどうぞ」お皿に残っているのを集めてもらい最後まで食べている子どももいます。食べ終わった子どもたちは保育士に歯磨きの歌を歌ってもらいブラッシングしてもらいます。

●1歳児クラス

園庭では一人の子どもが木の影に隠れたのを見て、保育士は「あ、〇〇ちゃんがないね、どこかな」とほかの子どもに声を掛け、いろいろな子どもを巻き込んでかくれんぼで遊んでいます。給食室をのぞきながら「給食が楽しみだね」と保育士は声を掛けて部屋に帰よう子どもたちに呼びかけます。砂遊びに夢中の子どもには、納得して部屋に入るまで保育士は見守っていました。靴下は自分で脱ぐように声を掛け、保育士は手伝わずに見守っています。部屋に入るときにたらいのお湯で足を洗い、保育士が足を拭いて、一人ずつトイレに誘います。子どもが蛇口の水をずっと出していると保育士が「もったいないばあさんが来るから止めて」と声を掛け、「もったいない」とおばあさんの口調を真似ると子どもも「もったいない」と真似ます。子どもが水を止めると「わー上手」と褒めています。保育士がうがいを見せて見せると子どももまねてうがいをします。保育士が手袋人形で手遊びをすると子どもたちは集中して見えています。集中するあまり段々と前に来ています。絵本「おばけがそろそろ」を取り出すと子どもから「いやだ」「こわい」と声があがりますが、保育士が「でもこわくないよ」と言って読みだすと、子どもたちは絵本の内容を知っていて、保育士と一緒に言葉を合わせています。給食は、「お手々をパッチン、いただきます」をしてエプロンを付けます。子どもたちは、スプーンを使ったり、手を添えたりして上手に食べています。保育士は「おいしい？」「上手」「えらい」等声を掛けて子どもが自分から食べられるように援助しています。

●2歳児クラス

朝の自由遊びでは、子どもたちは、線路をつなげて電車を走らせ、ブロックをしたり、ままごと遊びをしたり、ジュースに見立てたペットボトルをかごに入れお店屋さんごっこをしています。「お金持ってる?」「うん」「どれがいい?」「それ」と指差し、会話をしながら買い物をして飲む真似をします。保育士は眠そうに遊びに入れない子どもにおやつを取りに行くお手伝いを誘います。頼まれたことで元気になった子どもは廊下で出会った保育士に褒められさらに、嬉しそうです。「おかわりがいる人は」の声にみんなが手を上げます。終わった子どもはコップとお皿を下げています。一緒に散歩に出かける4歳児に靴を履くのを手伝ってもらいます。4歳児と手をつなぎ、途中でゴミ収集車の作業の様子をみたり、川で鯉に餌をあげたりしながら公園に到着です。子どもたちは、ドングリを集めたり、沢山の落ち葉をかき集めて空にパッと振りまいたりと思い思いにしています。滑り台を滑り、アスレチックの把手を手でつかみ足場にして登っていく子どももいます。4歳児が鬼ごっこをしていると、保育士に手をひかれた2歳児も交じって声をあげて走り回っています。沢山遊んだあとの帰り道は「帰ったら給食が待ってるよ」などと保育士に励まされて4歳児に手をひかれ、頑張っ て歩きました。帰ると4歳児に靴と靴下を脱がせてもらい、保育士が排泄を援助します。自分でできる子どもは一人でトイレに行きます。給食は楽しい会話をしながらみんな食欲旺盛で食べています。食べ終わった子どもは、席で歯磨きをしてから保育士に丁寧に仕上げ磨きしてもらいます。

●3歳児クラス

フルーツバスケットをして遊びます。保育士が「これはなあに?」と果物の絵が描いてあるカードを見せ、子どもたちはその中の好きな果物の絵を紙に描きます。保育士が「みかんってどんな形かな?」と聞くと、子どもたちは「葉っぱがあるよ」などと口々に話しながら楽しそうに描いています。描き終わった子どもの絵に保育士は首から下げられるよう紐を付けています。描き終わると、椅子を持ってきて丸く並べます。保育士も果物を描いた紙を下げ、輪の中に入ってゲームのルールを細かく説明し、「早く座った方が良いけどお友達を押ししたり、慌てて椅子にゴチンしないように気を付けてね」と注意をして、保育士が果物の名前を言います。徐々に子どもたちはルールが分かると楽しそうにはしゃぎながら椅子に座ります。鬼になりたくて座らないようにしている子どももいます。「今度は2回鬼になったら1回休み」とルールを変え、最後まで鬼にならなかった子どもはみんなから拍手をもらいました。園庭では保育士がカラスの足跡を見つけ「あ、おもしろい足跡見つけたよ」と声を掛けると、子どもたちは「カッパだ」「ひよこだよ」などと口々に言いながら足跡を追っていきます。保育士が一人の子どもをおんぶする様子を見て次々に子どもたちがおんぶをせがみ、一人10秒ずつ数えながら全員に対応しています。保育士がお片付けの声を掛け「上手にお片付けしているね」と一人に声を掛けると、どんどん片付ける子どもが増えていきます。給食はお箸が配られ、食べにくい子どもには「スプーンかフォーク、欲しい人いますか」と声を掛けて渡しています。給食が食べ終わった子どもは自分で食器を片付け、歯磨きをします。時折様子を見て「先生にいい音聞かせてね、今度はこっちも磨いてね」などとしっかり磨くよう声を掛けています。

●4歳児クラス

今日の予定を話し、散歩は金井公園に2歳児と一緒に行くのでどう連れて行けば良いか保育士が聞くと、子どもたちは口々に「引っ張ると泣いちゃう」「優しく手をつなぐ」「やだって言ったら聞いてあげる」などの意見に保育士は「素敵」「やさしい」と褒めます。散歩に出発する時間をボードの時計の針で示して、子どもたちはそれぞれトイシ、靴下、上着、靴の身支度をして廊下に並びます。外に出るとまず、子どもたちは園庭の玉ねぎと芽キャベツの水やりをし、そのあと、2歳児の支度を手伝います。靴を逆さにして砂を落としてから履かせています。2歳児と手をつないだ4歳児は道路側をゆっくり歩きます。散歩の途中でゴミ収集車を見つけ、立ち止まり作業の様子を見て、作業の人が手を振って乗り込むと「頑張ってるねえ」と声を掛けています。地域の人とも挨拶を交わしています。公園に着き、保育士が周辺の危険を確認して「どうぞ」の声で思い思いに走り出します。「みんな氷鬼やらない？」と誘いますがかくれんぼしたい子もいて、話し合いでかくれんぼが始まり、大きな声で数を数えて鬼になった保育士が走り出すと隠れていた子どもも逃げ出し、鬼ごっこ状態になります。「見つけたよ」と声を掛け、遊具で遊んでいた2歳児も4歳児に交じってキャーキャー言いながら斜面を走り廻り、誰が鬼かわからなくなりそうですが、楽しそうです。疲れて芝生の上で大の字になったり、そこからころころと滑りながら転がる子どももいます。枯れ枝や落ち葉を集めてたき火ごっこをしていると、親子で来ていた子どもが興味ありそうに寄って来て、自然に遊んでいる姿がみられます。保育士の「帰ります」の声で集まった子どもたちは、来たときと同じ2人組で帰ります。園に帰り、2歳児の手伝いが終わると、園庭で遊んでいた5歳児と一緒に氷鬼をします。思いっきり走って保育室に戻りました。

●5歳児クラス

5歳児は3歳児と手をつないで市民の森に向います。途中は登りがきつく、5歳児は3歳児をリードしながら手をつなぎ、保育士は3歳児を励まし、5歳児を褒めて進んでいきます。市民の森の「せせらぎの小道」に入ると、初めてこの道を見た3歳児から「トトロの道みたい！」「はじめてだ！」「何があるんだろう」と歓声があがります。子どもたちが「一本橋だ！」と言って一列になって渡って山道を上ります。山道はきつく、5歳児はペアの3歳児の後ろにつき「守ってあげよう」と励ましたり手助けしています。途中で視野が広がると子どもたちから歓声があがり、また少し登ると頂上の広場に着きました。5歳児は2組に分かれて2つの鬼ごっこがバラバラに展開したり、合体して大きな鬼ごっこになったり、また2つになったりと、子ども同士の関わりの中で遊びが変化しています。拾ったイチョウの葉っぱをまとめて保育士に縛ってもらい花束の形に作っています。イチョウだけの子ども、赤い葉っぱを混ぜる子どもなど様々です。別の道を通って山を下ります。細い山道に子どもたちの探検気分が高まり、葉っぱが揺れているのを見ると子どもたちが「カップだ！」と叫んだりしています。5歳児に手伝ってもらって結構急な道を転ぶことなく3歳児も頑張ってる下りています。もみじの葉っぱが一面に広がった池を見て保育士も子どもたちも「きれい」「もみじのプールだ」と一斉に歓声をあげます。帰り道は「身体が重くなった」「石になったみたい」「お腹がすいた」などと言い疲れた様子でしたが、保育士に励ましてもらいながら坂道を登り、頂上まで上がって園が見えると子どもの気持ちが持ち直し元気に帰りました。

◆ 事業者コメント ◆

第三者評価を受けて

27年の秋、28年度に第三者評価を受審することが決まりました。飯島保育園の保育とは、どんな保育をしているのか、私たちは保育の原点に戻って考え直すことにしました。

早速、評価項目に示されている言葉の根拠や意味について、丁寧に職員全員で話し合いを始めました。私たち保育者は日々の保育を計画し、生活と活動を実践しています。様々な経験が子どもにとって大きな意味があり、保育者の援助や声かけの一つ一つによって成長しています。その意味や根拠をさらに深めて話し合い、子どもたちにとって何より大切なことは様々な環境であることを確認しました。

環境の中には人的環境が大きな役割を持っています。子どもたちが「現在をもっともよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を担う」ことができるように、私たち保育者は常に保育の質の向上に努力が望まれます。そうした課題を整理し、第三者評価受審という目標に向かい、全職員の気持ちを一つにして取り組むことができました。

第三者評価受審は、私たち職員にとって大きく成長する機会となりました。子どもたちの健やかな成長と発達は、何よりも大きな喜びです。これからも保護者の皆様と一緒に、子どもたちの幸せと輝く未来を願い保育をしてまいります。

そして、保護者の皆様が飯島保育園の保育を理解し、協力していただいたことを感謝いたします。飯島保育園をご利用されるすべての方々が、安心して子育てをすることができるように、今後も私たち職員は常に課題を持って取り組みます。

この度、第三者評価をしていただきました評価機関の皆様には、温かく受け止め保育者と子どもたちの姿をしっかりと捉えて評価していただいたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。

平成29年3月
横浜市飯島保育園

福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : www.yresearch-center.jp/ Email : top@yresearch-center.jp



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02
